

# 阪急電鉄株式会社の事業適応計画のポイント

2026年3月31日

- 阪急阪神ホールディングスグループは、2050年カーボンニュートラルに向けて、2050年度の温室効果ガス排出量の目標を「実質ゼロ」と定めている。
- 今回の計画では、省エネルギー性能の高い車両を導入することで、CO2排出量の削減に取り組み、より地球環境への負荷が少ない鉄道事業を目指す。

## <事業適応計画の概要>

### 1.事業適応計画の実施期間

2026年4月～2029年3月

### 2.生産性向上目標

鉄道事業の炭素生産性を21.7%向上させる。

### 3.前向きな取組の内容

西宮車庫（神戸線）及び平井車庫（宝塚線）において、VVVFインバータ非搭載車両からVVVFインバータの半導体素子にSiCを採用した車両への置き換えを行うことで、炭素生産性を改善させる。

### 4.支援措置

税制措置（カーボンニュートラルに向けた投資促進税制）

## <取組の内容のイメージ>

### 西宮車庫（神戸線） 車両置き換え

【置換前】

5000系ほか：非VVVF



【置換後】

2000系：VVVF（SiC素子採用）



### 平井車庫（宝塚線） 車両置き換え

【置換前】

5100系ほか：非VVVF



【置換後】

2000系：VVVF（SiC素子採用）

